

論文内容の要旨

報告番号		氏名	梶田 義英
MINIMUM TEN-YEAR FOLLOW-UP OF COMPUTED TOMOGRAPHY BASED, CUSTOM CEMENTLESS STEM AFTER INTERTROCHANTERIC OSTEOTOMY FOR DYSPLASTIC HIPS (臼蓋形成不全の股関節に行った転子間骨切り術後症例に対するカスタムメイドセメントレスステムの術後10年以上の成績)			

論文内容の要旨

【目的】転子間骨切り術後症例に対する人工股関節全置換術において、良好な固定性を獲得することは、非常に困難である。また、セメント使用ステムにおいて、良好なセメント固定を獲得することも、既成のセメントレスステムにおいて良好な固定性を獲得することも、同様に困難である。

我々は、転子間骨切り術後症例に対する人工股関節全置換術において、大腿骨 CT データを基に作成したカスタムメイドセメントレスステムの成績調査を行った。

【方法】調査症例は、28 患者 32 関節で、平均年齢 62 歳、平均調査期間 13 年である。

術前の転子間骨切り術の内訳は、内反骨切り術 14 関節、外反骨切り術 17 関節、シャンツ骨切り術 1 関節である。大腿骨 CT データを基に Ti-6Al-4V のカスタムメイドステムを作成した。

このステムは、カラーはなく、近位はステム表面に厚さ400 μ m の純チタン祖面皮膜を形成し、その上に約20 μ m の厚みのハイドロキシアパタイトがコーティングされている。

【結果】ハリスヒップスコアは、術前49.9点が術後82.7点に改善した。また、術後の大腿部痛は 1 関節、骨折は 2 関節、脱臼は 3 関節にみられた。ステムのゆるみのために人工関節の再置換術を行った症例はなく、固定性分類は全例に bone-ingrown fixation であったが 14 関節に重度の応力遮蔽を認めた。

【考察】カスタムメイドステムを使う事により、良好な固定性を獲得できた。一方 14 関節に重度の応力遮蔽を認めた。転子間骨切り術後症例に対する人工股関節全置換術において、カスタムメイドステムの 10 年以上の長期成績は極めて良好であると考えられる。